

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20300252

研究課題名（和文） 自然体験学習の指導者養成システムに関する総合的研究

研究課題名（英文） Research on the System for Training Leaders in Nature Experiential Learning

研究代表者

朝岡 幸彦（ASAOKA YUKIHIKO）

東京農工大学・大学院農学研究院・教授

研究者番号：60201886

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学、科学教育

キーワード：自然体験 環境教育 指導者養成 SLE 科学教育

1. 研究計画の概要

本プロジェクトに関連してすでに活動を開始している「自然体験学習実践研究会」に自然保護教育や自然体験キャンプなどで取り組まれてきた手法を積極的に位置づけ、その評価を通して自然体験学習に関わる指導者養成のあり方を体系的に提起することを目標としている。

(1)中間報告書で提示された自然体験学習系環境教育の指導者養成カリキュラムの策定に関する研究の成果を踏まえて、(2)カリキュラム策定の前提となる科学教育との融合化を自然保護教育で多く取り組まれてきた自然観察の手法と体験学習の方法との関係に焦点化して研究を深め、(3)日中韓3カ国指導者要請の追跡調査を行うことで、(4)自然体験学習の指導者養成システムに関する体系的・総合的な枠組みを提起する。

2. 研究の進捗状況

当該課題研究の当初計画では、「自然体験学習実践研究会」を中心に、研究統括グループのもとで指導評価グループと自然観察—自然体験グループがそれぞれの研究成果を、それぞれの関連学会（環境教育学会及び科学教育学会など）で発表するとともにラウンドテーブルなどで議論を深めることであった。こうした研究の成果を、第3号『自然体験学習・自然保護教育の指導者養成』（H23 予定）として刊行する計画となっている。なお、これまでの成果として、博物館学芸員や教員、保育士、山村留学卒業生など多様な主体の指導者養成の実態と課題が明らかになったほか、とくに北海道厚岸町の霧多布湿原を中心とした教員・湿原センター職員に関する実証的な研究を通して指導者養成カリキュラム

及びシステムの基本的枠組みが提起されている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

自然体験学習実践研究会を中心に、『自然体験学習実践研究』等の形で着実に研究成果を形にしてきたが、当初計画にあったいくつかの団体の事情によって指導者養成モデルの試行にはいたっていない。とはいえ、それぞれの国や地域の風土・文化のちがいによる独自の指導者養成のあり方の意義が明らかとなった。一部の計画変更を伴ったとはいえ、研究そのものとして重要な知見が得られていると評価される。

4. 今後の研究の推進方策

当該研究課題に関する研究は順調に進んでいる。本プロジェクトを進める過程で調査を行った国内外の事例から自然体験学習が生物多様性教育として構想され、実践されていることがわかった。また、今回のCOP10では「名古屋議定書」と「名古屋ターゲット」の採択が期待されており、生物多様性をめぐる問題の中で生物多様性教育の担い手（指導者）の養成が喫緊の課題となっている。生物多様性教育の指導者養成システムを策定するにあたって、これまでの研究成果を踏まえた研究が求められており、当該研究計画を再構築した新たな課題による申請が必要であると考えるに至った。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ①降旗信一・元鍾彬「地域教育共同体における地域づくり計画の策定過程と環境教育」、「地域と教育」再生研究会調査研究報告書『韓国農村教育共同体運動と代案学校・協同組合の展開』、査読無、1巻、pp125-137、2011年、
- ②降旗信一・宮野純次・能條歩・藤井浩樹、「環境教育としての自然体験学習の課題と展望」、日本環境教育学会『環境教育』、査読有、Vol.19 No.1、pp.3-16、2009年
- ③伊東静一・小川潔「自然保護教育の成立過程」、『環境教育』、査読有、No.18、pp.29-41、2008年
- ④朝岡幸彦、「環境教育の今日的意義」、『技術教育』、査読無、No.675、pp.10-17、2008年

[学会発表] (計 8 件)

- ①朝岡幸彦、「生物多様性と生涯学習の課題」、日本社会教育学会 六月集会、2010年6月6日、法政大学
- ②降旗信一、「自然体験学習の到達点と環境教育研究としての課題」、第21回日本環境教育学会沖縄大会、2010年5月23日、沖縄
- ③小川 潔、「野外実習における学生の反応」、第12回子どもと自然学会全国研究大会京大山科大会、2009年12月6日、京都橘大学
- ④能條 歩ほか、「自然体験活動指導者養成に必要とされる科学的知識」、日本野外教育学会、2009年7月5日、北海道釧路市

[図書] (計 6 件)

- ①朝岡幸彦・阿部治監修、福井智紀・小玉俊也編著、筑波書房、『学校環境教育論』、2010年、215ページ
- ②朝岡幸彦・阿部治監修、降旗信一ほか編著、筑波書房、『現代環境教育入門』、2009年、221ページ
- ③朝岡幸彦・阿部治監修、小川潔ほか編著、筑波書房、『自然保護教育論』、2008年、175ページ
- ④朝岡幸彦ほか、草土文化、子ども白書 2010 「子ども政策」づくりへの総合的提案、2010年、pp. 204~209

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
該当なし